

議員派遣報告書

会 派 名	日本共産党安中市議団
参加議員	原田 大
日 程	令和 6 年8月4日(日)~6 日(火)
テーマ	原水爆禁止 2024 年世界大会-広島
詳細【1 日目】	
項 目	原水爆禁止2024年世界大会 開会総会
内 容	<p>・広島市長あいさつ、被爆者あいさつ、政府代表あいさつ</p> <p>・セッション I 核兵器禁止、核兵器のない世界の実現を</p> <p>・セッション II 核兵器禁止条約に参加する日本を-草の根運動交流</p> <p>地元広島の高校生で第25代高校生平和大使の司会で開会総会は進行。 広島市長のメッセージでは、昨年度の平和記念資料館の来場者が 198 万人と過去最多となり、海外からも広島への関心が高まっていることを再認識し、あらゆる暴力を否定する平和文化を醸成していく必要性が訴えられた。</p> <p>被爆者あいさつでは、核戦争の最大の危機を解決する道として、唯一の核兵器被害を体験し、平和憲法を持つ日本が真価を発揮すべきと語られた。</p> <p>オーストリアのアレクサンダー・クメント大使は、核兵器と核抑止力を中心とした安全保障の抜本的な転換が必要であると述べた。また、駐日インドネシア副大使は核軍縮はインドネシアの最優先課題とし、ガザ地区の紛争を例に挙げ核廃絶だけがこのリスクをなくすと呼びかけた。</p>
	 
詳細【2 日目】	
項 目	分科会-「平和の危機と気候変動」
内 容	<p>プロダイバーであり環境活動家でもある武本匡弘氏による4時間にわたる講和。</p> <p>同氏は、研究者や学者として語るのではなく、世界の海を渡り歩き、実際の海の中の惨憺たる状況を目のあたりにしてきた実体験から気候変動と平和の危機について語る。</p> <p>世界最大のサンゴ礁が広がるグレートバリアリーフは30年前まできれいなサンゴ礁が広がっていたが 2000 年以降がれきが常態化。沖縄でも同じ傾向であり、2034 年にはサ</p>

ングは白化してなくなるだろうと7年前にすでに国連が警告している。活動拠点としている神奈川内の2月の真冬の海で今や熱帯魚が泳いでいる。すべて地球温暖化が原因。国内沿岸部に隣接する原発は、蒸気を冷やすために海水を数十トン使い海に放出するとき7度も海水が上昇するため、原発ある周辺の海の海水温度は高く、水中の環境破壊を起こしている。

環境に負荷をかけない風だけで動くヨットで太平洋を定期的に探索するが、どこに行ってもサンゴがない。リーフフィッシュはサンゴと共に共生しているがサンゴがいなくなると魚は死んでしまい、その地域では漁業が成り立たなくなる。そこでミクロネシアの子供たちは生活するために、アメリカ軍に入隊。この地ではアメリカ軍のリクルート天国となっているように、貧困が生む徴兵により、紛争地では、貧困地出身の兵士が多数亡くなっている実態がある。

気候危機も平和危機も同様で政策判断の誤りである。日本では環境教育は進められてこなかったため、日本における気候変動の理解度は世界的にみて低い。核兵器は瞬時の殺人。気候危機は緩慢な殺人。どちらも例外主義はあってはならない。

詳細【3日目】

項 目 原水爆禁止 2024 年世界大会 閉会総会

内 容

- ・各国政府・自治体メッセージ紹介、ゲストスピーカー、政党・国会議員あいさつ
- ・特別企画「被爆者の声を世界に」
- ・海外代表からの発言、日本の決意、文書提案・採択

駐日カザフスタン大使館及び駐日メキシコ大使館スタッフ、国会議員による訴え、さらに、被爆者の観点から、国内外参加者から核被害の実相が語られる。その他産業界からもメッセージが紹介される。最後は、「広島からのよびかけ」として、被爆 80 年を迎えようとしている今、希望の光である核兵器禁止条約を力に、「核兵器のない平和で公正な世界」への道を切りひらくため、ただちに行動に立ち上がろうと表明あり、採択される。

